

司式 熊田雄二牧師

奏楽 森永美保姉妹

前 奏

開 会 招 詞

* 賛 美 歌 14 : 1 ほめたたえよ造り主を(讚美歌 79)

ほめたたえよ造り主を 聖き御前にひれ伏し ささげまつれ
身をもたまをも たぐいなき御名をあがめて アーメン

* 開 会 祈 禱

罪 の 告 白 祈 禱 書 2 (詩編 51 編)

かみ あわ おんいつく ふか おんあわ そむ
神よ、わたしを憐れんでください。御慈しみをもって。深い御憐れみをもって、背き
つみ さ
の罪をぬぐい去ってください。わたしのとがをことごとく洗い、罪から清めてください。
とが う お はは み つみ
わたしは咎のうちに産み落とされ、母がわたしを身ごもったときも、わたしは罪のう
ちにあつたのです。

あは ゆきしろ かみ うち ころ そうぞう
わたしを洗ってください。雪よりも白くなるように。神よ、わたしの内に清い心を創造
あたら たし れい すく よろこ ふたた あじ じゆう
し、新しく確かな霊をさずけてください。救いの喜びを再びわたしに味わわせ、自由
れい ささ しゅ くちびる ひら くち
の霊によって支えてください。主よ、わたしの唇を開いてください。この口は、あなた
さんび うた しゅ み な
の賛美を歌います。主イエス・キリストの御名によって。アーメン。

罪の赦しの宣言

十 戒 祈 禱 書 4

- あなたは、わたしのほかに、なにもの かみ も神としてはならない。
- あなたは自分のために刻んだ像を造ってはならない。それにひれ伏してはならない。それにつかえてはならない。
- あなたは、あなたのかみ しゅ なを、みだりにとなえてはならない。主は、みなをみだりに唱える者を、罰っしないでははおかない。
- 安息日をおぼえて、これを聖とせよ。
- あなたのちち はは うやまを敬え。
- あなたは殺してはならない。
- あなたはかんいんを姦淫してはならない。
- あなたはぬすんで盗んではならない。
- あなたはりんじんについてぎしょうを偽証してはならない。
- あなたはりんじん いえをむさぼってはならない。りんじん つま りんじん
のものをむさぼってはならない。 (出エジプト 20、申命記 5)

* 賛 美 歌 72 : 1 心を高くあげよ

心を高くあげよ、主の御声に従い、
ただ主のみを見上げて、心を高くあげよう アーメン

公 同 の 祈 禱

祈 禱 書 6 ニケア信条 (三位一体主日・その他適切な主日)

われ ゆいいつ ぜんとう かみ てん ち み み そうぞうしゃ
 我らは、唯一の全能の神、天と地と、すべて見えるものと見えざるものとの創造者を
 しん われ ゆいいつ しゅ かみ ひと しん しゅ よ
 信ず。我らは、唯一の主、神の独り子、イエス・キリストを信ず。主は、あらゆる世のさ
 ちち う かみ ひかり ひかり つく う ちち どういつ ほんしつ
 きにみ父より生まれ、神よりの神、光よりの光、造られずして生まれ、み父と同一の本質
 まこと かみ ばんぶつ かれ つく しゅ われ にんげん われ すく
 にいます真の神。万物は彼によりて造られた。主は、我ら人間のため、我らの救いのた
 てん くだ せいれい おとめ じゆにく ひと われ
 めに天より降り、聖霊によって処女マリアより受肉して人となり、我らのために、ポン
 テオ・ピラトのもとに十字架につけられ、苦しみを受け、葬られ、聖書に従って三日目
 てん のぼ ちち みぎ ざ い もの し もの さば えいこう
 によみがえり、天に昇り、み父の右に座し、生ける者と死ねる者とを審くために、栄光
 ふたた き みくに お われ せいめい あた ぬし
 をおびて再び来たりたもう。その御国は終わることがない。我らは、生命の与え主にし
 しゅ せいれい しん せいれい ちち み こ い ちち み こ れいはい
 て、主なる聖霊を信ず。聖霊はみ父と御子とより出で、み父と御子とともに礼拝され、
 あがめられ、預言者を通して語りたもう。我らは、唯一の聖なる公同の使徒的教会を信
 われ つみ ゆる ゆいいつ せんれい こくはく われ しにん き
 ず。我らは、罪の赦しのための、唯一の洗礼を告白す。我らは、死人のよみがえりと、来
 よ いのち ま のぞ
 たるべき世の命とを待ち望む。 アーメン。

献 金 (黒) 教会活動 (赤) 神学研修所 70

今ささぐるそなえものを 主よ きよめて うけたまえ アーメン

聖書朗読 ヨハネの手紙一 2章1-17節 (新約聖書 441頁)

説教・祈祷 礼拝は生命⑤「十 戒」 熊田雄二牧師

* 賛美歌 101:1 命の泉に

命の泉にましますイエスよ 豊かに流れてうるおしたまえ

まことの言葉に渴きし我も 主の手にすがりて喜び進まん アーメン

* 主の祈り 祈祷書 1

てん われ ちち
 天にまします我らの父よ

ねが み か
 願わくは御名をあがめさせたまえ

みくに き みこころ てん ち
 御国を来たらせたまえ 御心の天になるごとく 地にもなさせたまえ

われ にちよう かつて きよう あた
 我らの日用の糧を 今日も与えたまえ

われ つみ おか もの われ ゆる われ つみ ゆる
 我らに罪を犯す者を我らが許すごとく 我らの罪をも許したまえ

われ こころ あ あく すく だ
 我らを試みに会わせず 悪より救い出したまえ

くに ちから さか かぎ なんじ
 国と力と栄えとは 限りなく汝のものなればなり アーメン。

* 頌 栄 65 父・御子・御霊の

父・御子・御霊の大御神に ときわに絶えせず御栄えあれ 御栄えあれ アーメン

* 祝 禱

後 奏 (黙禱)

報 告

雨宮信長老

朝拝説教はインターネット動画 (HPより)・メール配信あるいは郵送します

○ 次週朝拝 第一テサロニケ 5:12-28 礼拝は生命⑥「公同の祈祷」熊田牧師
 ソングシート 15:1、74:1、45:1、65 門脇陽子姉妹

I 罪の赦しの宣言と十戒

① 罪の赦しの宣言は福音であり、十戒は律法です。この順序は逆ではありません。十戒の前置き「私はあなたをエジプトの奴隷状態から導き出した。」これが、そもそも福音です。救いの恵みに感謝して戒めを守ることは、旧新約同じ順序ですが、新約においてより明きらかになりました。

キリストにおいて罪の奴隷状態から救い出され、三位一体の神の愛のまじわりに入れられ、神の子とされました。それほど高い状態にされましたから、神の掟を守るモーチベーションも高くなります。1章3節「私たちの交わりは、御父と御子イエス・キリストとの交わりです。」

② そこで律法を守る動機は愛です。2章5節「しかし、神の言葉を守るなら、まことにその人の内には神の愛が実現しています。これによって、私たちが神の内にいることが分かります。」 律法を守ることは、神の愛への感謝と信頼から来るものです。その信頼は、神の御子イエス・キリストに結ばれている、神の子たちの思いです。だから、2章6節「神の内にもいつもいると言う人は、イエスが歩まれたように自らも歩まなければなりません。」

II 十戒を唱えることの意義 I

① 2章7節「愛する者たち、私あなたがたに書いているのは、新しい掟ではなく、あなたがたが初めから受けていた古い掟です。あなたがたがすでに聞いたことのある言葉です。」 その旧約聖書の掟が、8節にあるように、キリストにあって新しい掟となるのです。すなわち、新約時代の今、十戒は、キリストにあって新たな権威を帯びています。それは人々も驚いた、旧約預言者以上の権威でした。主イエスは主なる神ヤハウエ御自身でもあります。

内容的には旧約も新約も同じです。十戒の一枚目の板には第一戒から第四戒まで神への愛が書かれ、二枚目の板には第五戒から第十戒まで隣人への愛が書かれています。

② 新約時代の教会の礼拝で十戒を唱える意義は、特に第四戒にあります。「安息日を覚えて、これを聖とせよ。」これが土曜安息日ではなく、日曜日の主の日に変ったのなら、何か表現を変えなければなりません、「安息日」をそのまま使っています。ということは、安息日の意義は、その精神は生きているということです。

「聖とせよ」と言われますから「聖別」が大切な精神です。だから、「聖日」とも言います。一週間というライフサイクルは、旧新約同じです。神を礼拝する日として聖別することは、信仰生活の訓練として続いています。本来、主の日は、朝から夕べまで聖別することが望ましいのです。朝拝に始まり、夕拝に終わることが望ましいのです。今は新型コロナウイルスの対策で、主の日に集まることは思うようにできませんけれども、主の日のために、土曜日までに、仕事や家事を片づけておく心がけは尊い精神です。それを訓練すれば安息できます。

しかし、新約時代は、キリストの弟子となる神の民が、宗教国家イスラエルから始まって全世界に拡がっていきました。そこで、国や社会によって、安息日を

掟にしていけない所では工夫を要します。初期のアメリカ移民は、ピューリタンというキリスト教徒の社会でありましたから、安息日を法律とすることができました。ですが、その後アメリカには多種多様な民族と宗教が入ってきました。もともと迫害を逃れて信教の自由を求めた人たちの国ですから、だんだん他の宗教の自由も認めるようになりました。キリスト教安息日を社会の掟とすることはできなくなったのです。

日本では、アメリカからプロテスタント・キリスト教が伝わって、プロテスタント信者が国家公務員の中で増えるに連れ、一週間七日制が始まりました。しかし、多くの国民にとっては、日曜日はただのお休みです。また仕事上、日曜日が休めない職種もあります。そこで、信徒によっては日曜日以外が休みの日となることもあります。

それでも、クリスチャンが「安息日を覚えてこれを聖とせよ」と唱えることには意義があります。信徒にとっては、礼拝がいちばんの安息だからです。一週間働いて、神様に報告して休むのが、いちばん安まるのです。礼拝で一週間の罪を告白し、献金で一週間の働きを報告し、週ごとに安息するのです。地上には安住の地はありません。だから地上のどこにいても、安息日礼拝を繰り返しながら、永遠の安息を目指すのです。

しかし、「安息日はちっとも安息ではないではないか」という声もあるでしょう。教会奉仕は平日に分散できるとよいのですが、日曜日に集中しがちです。これは、日本社会の実情から避けられない現実でもあります。しかし、日曜日は復活のキリストにお会いするお祭です。だから、行事や奉仕が重なっても、聖徒のまじわりによって満足感が与えられる一面もあります。奉仕もエンターテインメントがあると楽しい一面があります。

だから楽しみつつ、「安息日を覚えてこれを聖とせよ」と唱えては、永遠の安息を待ち望みましょう。安息日の完成には、大讃美のお祭りがあるのを待ち望みましょう。また特に、自分が「聖となる」復活を待ち望みましょう。

2章1節「私の子たちよ、これらのことを書くのは、あなたがたが罪を犯さないようになるためです。たとえ罪を犯しても、御父のもとに弁護者、正しい方、イエス・キリストがおられます。」 実は、この世でいちばん疲れるのは自分の罪なのです。その疲れが取れるのは、救い主によって神を讃美する以外にありません。

Ⅲ 十戒を唱えることの意義 2

ところで、時々耳にするのですが、十戒の表現はきつ過ぎるから止めるべきでしょうか？ 禁止表現「～してはならない」は古い契約でしょうか？ 『『神を愛し隣人を愛せよ』と主イエスが十戒を要約されたのだから、愛だけでいいではないか』という声に従うべきでしょうか？ いいえ、神の恐ろしさを覚えることが、罪を犯さないために効き目があるのです。

1. 第一戒を毎週唱えなかったら、神々の多い日本社会では、容易に付き合い合わせてしまいます。「私は周囲に流されやすい」と、弱さを覚えながら第一戒を唱える人は幸いです。また、神の愛が私に迫っていると覚えて唱えるなら、もっと幸いです。「あなたは私のほかに何者をも神としてはならない」は、結婚の誓約と同じだからです。神と教会の関係は旧約聖書では夫婦関係です。キリストと教会の関係は、新約聖書では花婿と花嫁

の関係です。約束を破れば愛が破れるのです。

2. 第二戒を唱えなかったら、仏像や偶像だけでなくマリア像なども拝むようになるかもしれません。
3. 第三戒を唱えなかったら、世俗化されたキリスト教社会のように、みだりに神やキリストの名を口にするようになるかもしれません。
4. 第四戒を毎週唱えなかったら、簡単に礼拝を休んでしまうかもしれません。第四戒は禁止命令ではなく、「安息日を覚えて、これを聖とせよ」というように、律法を積極的に行なえという命令です。
5. 第五戒を唱えなかったら、父母を敬わないどころか、すべて上に立つ権威に逆らうようになるかもしれません。すべて上に立つ権威の上には神がおられるのです。世の風潮に染まってしまうと、目上の人を畏れ敬う心が養われません。第五戒も禁止命令ではなく積極命令です。
第四戒と第五戒の二つは積極命令だということは、一枚目の戒めの板から二枚目の戒めの板に移る時、神を敬うことと人を敬うこととは密接な関係があることを教えてくれます。神を畏れ敬う心がなくては、親や先生を敬う道徳は成立しないのです。
6. 第六戒を唱えなかったら、憎しみから殺意が燃え上がるのを抑えきれないことがあるかもしれません。
7. 第七戒を唱えなかったら、世俗の波に飲みこまれて、汚れることに慣れてしまうかもしれません。そして結婚の制度を軽んじるようになるかもしれません。
8. 第八戒を唱えなかったら、人目を盗んで神の目を意識しない自分が育ってしまうかもしれません。
9. 第九戒を唱えなかったら、証人喚問という場面で真実を語ると誓いながら平然とうそを言う人間になってしまうかもしれません。
10. 第十戒を唱えなかったら、現代社会の食りは牛・ろぼどころではありません。ありとあらゆる食りに埋もれてしまうかもしれません。

だから「～してはならない」と命令なさる神の声を聴くことは、昔も今も有効なのです。繰り返し唱えて神の声に聴きながら、律法は、神と人を愛する掟だと高められていきます。上福岡教会では、十戒に続く賛美歌は、罪を赦された喜びと神の戒めに生きる喜びに満ちた賛美歌を歌います。罪の赦しの宣言をいただいたあと十戒を唱えて、「主よ、我らを憐れみ、この掟を守る心を与えたまえ」と新たな決意をし、主なる神を讃美するのです。